

山梨県市町村総合事務組合

「かいのくにエコパーク」は何をしている施設？

家庭などから出た生活ごみは、^{いっばん ばい ぶつ}一般廃棄物と呼ばれます。一般廃棄物は、「^{りざうげん}再資源化（リサイクル）されるもの」と「^{しょうやく}焼却されるもの」に分けられます。

焼却されたごみは、^{しょうやく}焼却灰となり、^{りざうげん}再資源化することができない細かいくずは、^{ふ ねんせいざん}不燃性残さと呼ばれ、これらは埋立地に埋め立てられます。

もし、これらのごみを埋め立てる場所がなかったら、私たちの暮らしにはごみがあふれてしまいます。

「かいのくにエコパーク」は、これらのごみを埋め立てる施設であり、私たちの暮らしにとって、とても大事な役割を担っています。

ぼう さい ちようせい ち 防災調整池

敷地内に降った雨を貯めて、河川へ流れる水の量を調整する設備です。
・貯められる水の量：9,070m³

しん しゆつ すい ちようせい ち 浸出水調整池

埋立地から出る汚れた水（浸出水）を貯めて、水処理施設に送る設備です。
・貯められる水の量：11,000m³

みず しょり し せつ 水処理施設

汚れた水（浸出水）をきれいに処理する施設です。
きれいにした水は、下水道に流れます。
・一日に処理できる水の量：120m³

かん り し せつ 管理施設

- ・管理棟（かんりとう）
施設の管理人やごみの埋立作業員がいる建物で、ここでは、ごみの搬入手続きや全ての施設の集中管理をするほか、見学者への説明を行っています。
- ・計量設備（トラックスケール）
トラックで運ばれてきたごみをトラックに載せたまま重さなどを量る設備です。

モニタリング井戸

ピオトープ

甲府・峡東クリーンセンター

寺尾の湯

地下水ピット

モニタリング井戸

ピオトープ

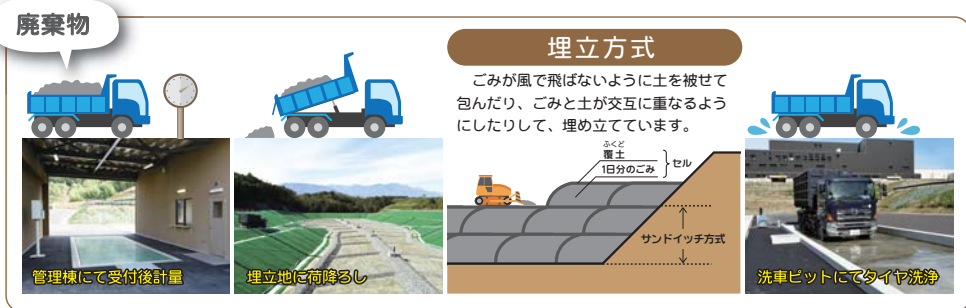
うめ たて ち 埋立地

トラックで運ばれてきたごみを埋める場所です。埋まっているごみに雨が降ると、汚れた水（浸出水）が出てきます。
・埋め立てられる量：302,000m³（約36.7万トン）

モニタリング井戸

ごみの流れ・埋め立てまで

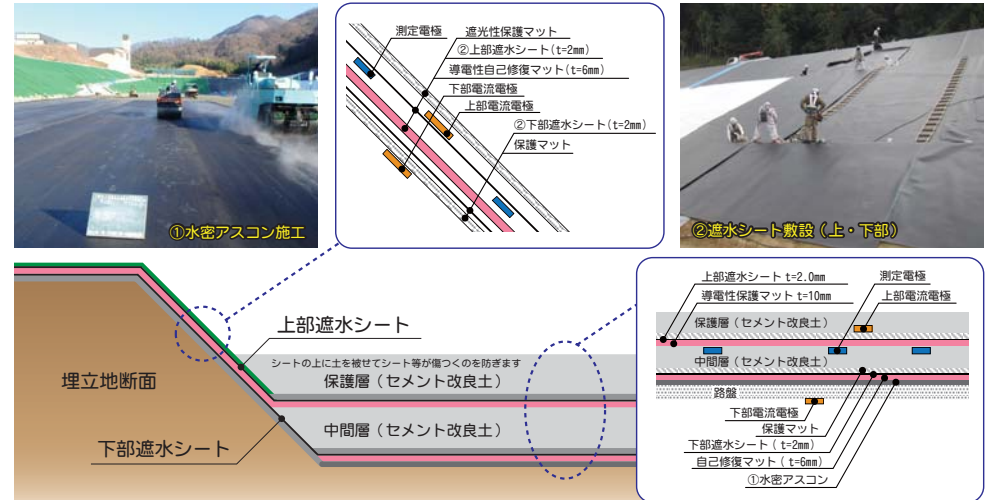
人が生活することによって出る可燃ごみ、粗大ごみ、不燃ごみなどの生活ごみは、法律※1によりごみを処理する責任がある市町村が下のイラストのとおり処理しています。
※1「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」



埋立地の遮水構造

～埋立地の仕組み～

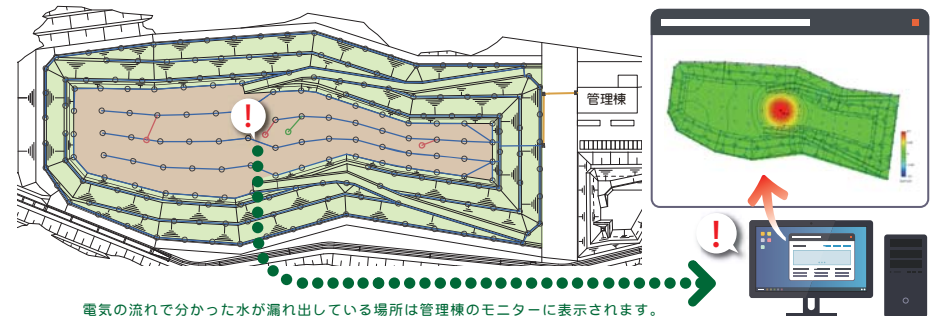
埋立地は、ごみから出る汚れた水が地下に漏れ出し環境を汚してしまうことを防ぐため、水を通さないシート（遮水シート）などを下に敷いています。「かいのくにエコパーク」では、2枚の遮水シートのほかにも、その下に水を通さないコンクリートを敷くなどして、何重もの遮水構造で安全な仕組みを実現しています。



※水密（すいみつ）アスファルトコンクリート（水密アスコン）：水を通さない性質を持つアスファルトコンクリートまたはアスファルト混合物のこと。
※保護マット：遮水シートを傷から守るマットのこと。
※導電（どうでん）性：電気が流れる性質のこと。
※自己修復：シートに空いた小さな穴をマットがふさいでくれること。
※遮光（しゃこう）性保護マット：太陽の光によって遮水シートの性能が落ちることを防ぐマットのこと。

漏水検知システム

漏水検知システムは、埋立地に電気を流して漏水を確認するシステムです。遮水シートに穴などが空いてしまったときは、その水が漏れださないように素早く直す必要があります。毎日のように埋立地に電気を流し、点検することで、仮にシートに穴が空きそこから水が漏れ出すようなことがあった場合には、その部分にだけ電気が流れるため、いち早くかつ正確にその場所を見つけ出すことができます。



浸出水処理の仕組み

